

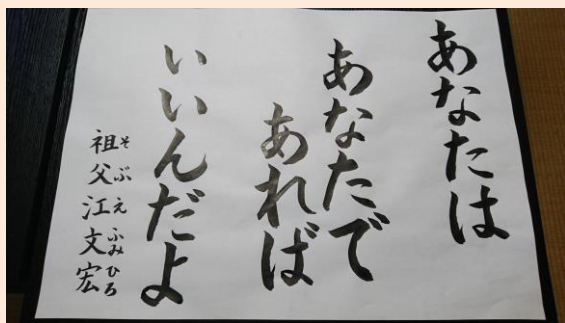
INFORMATION

2019年 修正会

日 2019年1月1日  
 時 10:30から  
 場所 徳泉寺本堂  
 内容 勤行・法話  
 持ち物 念珠・勤行本

新しい年を迎えた日  
 ご門徒のみなさまと  
 ご一緒に  
 新年最初のお勤めを行います。  
 新たな一年に手を合わせ  
 願いを受け取る元日に  
 なりますように。  
 ご家族そろって  
 お越してください。

今月のことば



岐阜県の僧侶で児童養護施設の園長をされていた祖父江さんの言葉です。自分が自分であっていいということが、私たちにとって最も安心できる居場所と言えるのではないのでしょうか。

境内の花々



同朋会コーナー

十二月同朋会より

住職法話抜粋『三帰依文(さんきえもん)について』

Buddham saranam gacchami

ぶっだん さらなん がっちゃーみ

Dhammam saranam gacchami

だんまん さらなん がっちゃーみ

Samgham saranam gacchami

さんがん さらなん がちゃーみ

先月もお話ししました『三帰依文』について。仏・法・僧をよりどころとして生きていきたいと思います。というインドの古い言葉、サンスクリット語で書かれた聖文です。「ぶっだん」が仏陀(ブツダ) 〓 覚者(目覚めたもの)に「だんまん」が達磨(ダルマ) 〓 仏陀の教えに「さんがん」が僧伽(サンガ) 〓 同じ志の朋(とも)に「仏陀を大事な宝としていきます。教えを拠り所にしていきます。同朋と一緒に生きていきます。」というように訳されます。音楽の節がついていて節は変わりますが、言葉はインド→中国→日本へとそのまま伝わり今日でも宗派を超えて大切に唱えられています。

前任職法話一部抜粋『歎異抄 後序』より

「歎異抄」は「歎異(たんに)」であり「破邪顕正」ではありません。破邪顕正とは間違いを破って正しいことを顕(あき)らかにするという強い言葉です。そうではなくて「歎異」。ここには願いがあふれ悲しみがあります。お念仏の教えが正しく伝わっていないことを嘆き、正しく伝わってほしいという願いです。また、最後に「流罪の記録」が残されています。ここには何の説明もありませんが、念仏者が流罪・死罪に罰せられたけれども、それによって念仏申すことをやめたのではない。耐えながらなおここに念仏申すことが真実であり、守るべきものだと言外に伝えていると言われています。

一月の同朋会はお休みです

『徳泉寺報』後記

毎年(この一年どんなことがあったかな)と振り返っていましたが今年(どんな人と出遭ったかな)と振り返ってみました。すると思っていたよりもたくさんの人の顔が浮かんでびっくりし、温かい気持ちになりました。ぜひお試ください。

本年も大変お世話になり、ありがとうございました。良いお歳をお迎えください。